

硫黄島調査特別委員会速記録

平成28年12月13日（火曜日）午前11時開会

出席委員（6名）

委員長	杉田一男君	副委員長	安藤重行君
委員	稲垣勇君	委員	鯉江満君
委員	一木重夫君	委員	清水良一君

委員外出席議員（1名）

議長	池田望君
----	------

出席説明員

村長	森下一男君	副村長	渋谷正昭君
教育長	松本隆君	総務課長	セーボレー孝君
総務課 企画政策室長	樋口博君	財政課長	江尻康弘君
村民課長	村井達人君	医療課長	佐々木英樹君
産業観光課長	牛島康博君	環境課長	深谷雪雄君
建設水道課長	篠田千鶴男君	母島支所長	湯村義夫君
教育課長	持田憲一君		

事務局職員出席者

事務局長	大津源君	書記	萩原佳代君
------	------	----	-------

議事日程

日程第1 F C L P（空母艦載機離着陸訓練）（日米再編含む）について

日程第2 その他の訓練について

日程第3 遺骨収集帰還事業について

日程第4 その他

日程第5 閉会中の継続調査について

◎開会の宣告

○委員長（杉田一男君） ただいまから硫黄島調査特別委員会を開会します。

出席委員が定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

（午前 1 1 時）

◎会議時間の延長

○委員長（杉田一男君） あらかじめ会議時間の延長をしておきます。

◎説明員の出欠について

○委員長（杉田一男君） 次に、説明員の出欠について事務局長に報告させます。

○事務局長（大津 源君） ご報告いたします。

本日の委員会の説明員は、全員が出席との通知がありました。

以上でございます。

◎F C L P（空母艦載機離着陸訓練）（日米再編含む）について

○委員長（杉田一男君） それでは、本日の議題に入ります。

日程第 1、F C L P（空母艦載機離着陸訓練）（日米再編含む）について、執行部からの報告を求めます。

総務課長、セーボレー君。

○総務課長（セーボレー孝君） 9 月 6 日以降の F C L P（空母艦載機離着陸訓練）（日米再編含む）につきましては、実施の実績はございませんでした。

○委員長（杉田一男君） ただいまの報告について、質疑、意見のある委員は挙手をしてください。

今回は訓練がないということで、質疑がもうないようですので、これにて質疑を終了します。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（杉田一男君） 異議なしと認めます。

◎その他の訓練について

○委員長（杉田一男君） 次に、日程第2、その他の訓練について、執行部からの報告を求めます。

総務課長、セーボレー君。

○総務課長（セーボレー孝君） その他の訓練についてでございます。

1つはHRS訓練、これにつきましては、海面を漂流する遭難者をヘリコプターから降下救助するという訓練でございます。9月13日、11月24日に実施されております。

2番目ですけれども、LCACの訓練でございますけれども、9月20日から21日、訂正させていただきたいと思っておりますけれども、12月6日から8日まで実施しております。今後は、2月14日から17日に実施を予定しております。

その他訓練についての報告は、以上でございます。

○委員長（杉田一男君） ただいまの報告について、質疑、意見のある委員は挙手をしてください。

ございませんか。

（挙手する者なし）

○委員長（杉田一男君） 質疑がないようですので、これにて質疑を終了します。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（杉田一男君） 異議なしと認めます。

◎遺骨収集帰還事業について

○委員長（杉田一男君） 次に、日程第3、遺骨収集帰還事業について、執行部から報告を求めます。

総務課長、セーボレー君。

○総務課長（セーボレー孝君） 遺骨収集帰還事業についてでございます。

1番目としまして、滑走路地区の掘削立ち会い、これにつきましては第10回から第14回まで、9月26日から12月12日までですけれども、5回実施されております。さらに第15回目としまして、昨日12月12日まで19日まで実施中でございます。

今後につきましては、第16回から第20回までの掘削立ち会いが、1月12日から3月16日までで予定しております。

1枚めぐりまして、次に遺骨収集でございますけれども、第2回目が9月28日から10月12

日の期間で実施されました。小笠原村在住硫黄島旧島民の会 8 名、村職員 1 名が参加しております。収容柱数は 8 柱でございます。

次に、第 3 回の遺骨収集でございますけれども、11 月 22 日から 12 月 7 日までの期間で実施されました。この事業につきましては、小笠原村在住硫黄島旧島民の会から 6 名、村職員 1 名で参加し、4 柱収容しております。

なお、この第 3 回目の遺骨収集事業から、一般社団法人の日本戦没者遺族遺骨収集推進協議会、厚生労働省からの委託を受けて実施しております。

次に、第 4 回の遺骨収集でございますけれども、年明けて 1 月 18 日から 2 月 2 日を予定しております。小笠原村在住硫黄島旧島民の会 8 名、村職員 1 名で参加を予定しております。

次に 3 番目としまして、平成 28 年度遺骨引渡式、千鳥ヶ淵の戦没者墓苑でございますけれども、2 月 2 日を予定しております。

遺骨収集帰還事業につきましては、以上でございます。

○委員長（杉田一男君） ただいまの報告について、質疑、意見のある委員は挙手をしてください。

質疑はございませんか。

（挙手する者なし）

○委員長（杉田一男君） 質疑がないようですので、これにて質疑を終了します。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（杉田一男君） 異議なしと認めます。

◎その他

○委員長（杉田一男君） 次に、日程第 4、その他の事項として、執行部から報告を求めます。

総務課長、セーボレー君。

○総務課長（セーボレー孝君） その他事項としまして、まず初めに基地交付金・調整交付金の決定についてでございます。

基地交付金ですけれども、平成 28 年度 7,506 万円の交付決定があり、平成 27 年度が 8,116 万 3,000 円でありましたので、610 万 3,000 円の減となっております。

調整交付金につきましては、平成 28 年度 4,600 万 9,000 円、平成 27 年度が 4,789 万 4,000 円、188 万 5,000 円の減となっております。

合計しますと、平成28年度が1億2,106万9,000円に対し、平成27年度が1億2,905万7,000円でありましたので、798万8,000円の減となっております。

減額となった理由でございますけれども、平成28年3月31日、基準日において、新規の対象資産の増加分がなく、資産の減、マイナス7.5%。内訳は土地がマイナス0.2%、建物がマイナス6.7%、工作物がマイナス12%のみで、全体に占める小笠原の対象資産価格の割が低くなったことが要因と考えられる。ただし、評価額の減額率に比べて、交付金の減額率は少ない、マイナス6.2%と少なくなっている状況です。

次に、特定防衛施設周辺整備調整交付金交付額の決定についてでございます。

交付金の平成28年度の額ですけれども、5,916万8,000円に対しまして、平成27年度が5,857万9,000円でありましたので、差額58万9,000円の増でございます。この交付金につきましては、平成23年度に硫黄島飛行場施設が特定防衛施設として指定されたことに伴い、交付されることとなったものでございます。

次に3番目としまして、第45回全国硫黄島旧島民の会が開催されております。会場が川崎日航ホテルです。開催された日が9月11日、参加者が90名。村からは総務課の主査が出席させていただきました。

次に4番目としまして、硫黄島及び北硫黄島旧島民の墓参です。東京都主催の墓参が9月27日から28日に行われました。参加者は、本土在住旧島民の方が22名、村在住旧島民の方が2名、引率職員が14名で、トータル38名の参加者でございました。

次に5番目ですけれども、10月8日に小池都知事が「東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー」の帰路、硫黄島の鎮魂の丘で慰霊をされました。

次に6番目、硫黄島戦没者追悼式（東京都主催）でございますけれども、10月20日に開催されました。参加者は、主催者・来賓等で20名、遺族が31名、トータル51名の参加者がありました。

7番目、硫黄島慰霊巡拝事業、厚生労働省の主催でございます。第1次慰霊巡拝が、10月25日から26日、参加者100名で行われました。第2次慰霊巡拝が2月21日から22日で、募集人員80名で今募集が行われております。

なお、初日につきましては、それぞれ結団式となっておりますので、現地へは2日目ということになります。

8番目としまして、硫黄島島民平和祈念墓地公園管理事業でございます。第4回の事業が10月26日から31日の期間で実施しました。従事者は、硫黄島旧島民の会から4名、村職員

が1名。

次に、第5回の事業が、今月16日から20日を予定しております。また、第6回目の事業が3月23日から26日という日程で今調整しております。

その他の報告は以上でございます。

○委員長（杉田一男君） ただいまの報告について、質疑、意見のある委員は挙手をしてください。

安藤重行副委員長。

○副委員長（安藤重行君） すみません、ちょっと教えていただきたいんですが、最後のページですが、硫黄島及び北硫黄島旧島民の墓参と、その後の硫黄島戦没者追悼式、これは硫黄島でやったということでもいいんですか。

○委員長（杉田一男君） 総務課長、セーボレー君。

○総務課長（セーボレー孝君） 6番目の硫黄島戦没者追悼式、東京都主催のものかと思えますけれども、硫黄島現地で行われております。

それから、（4）番の硫黄島及び北硫黄島旧島民の墓参につきましても硫黄島で行われております。北硫黄島のほうに直接行ってはおりません。

○委員長（杉田一男君） ほかにございますか。

一木重夫委員。

○委員（一木重夫君） 基地交付金・調整交付金の件ですけれども、今回、調整交付金で180万円ぐらい減額されています。この調整交付金は米軍資産を対象にしていると聞いております。つまり、硫黄島にはまだ米軍が管理している土地があるということでございます。

東京都の基地対策室のホームページを見ますと、東京都内には、まだ米軍から返還されていない土地がたくさんあるんですね。その1つが、ここの対象資産になっている硫黄島の通信所になっています。東京都内で一番面積が大きいのが横田基地、続いて硫黄島の通信所という形で載っております。ただ、その通信所という名前ですけれども、実質的には硫黄島の飛行場、あの辺が米軍の資産になっていて、まだ返還をされていないということになっています。

この米軍の返還の問題は、決して沖縄だけではなくて、東京都にもありまして、特に私が聞く範囲では港区の赤坂プレスセンターというところがありまして、そこは港区挙げて米軍に対して返還を求めています。港区議会もわざわざ米軍に行って、その返還を求めているんですね。そういう実態があるんですけれども。

村長に教えてほしいんですけれども、これまでの小笠原の返還後の歴史の中で、硫黄島の通信所を米軍に対して返還を求めたということはあるのでしょうか。

○委員長（杉田一男君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 私の記憶する範囲ではなかったというふうに思っております。

○委員長（杉田一男君） 一木重夫委員。

○委員（一木重夫君） そうしますと、今後、またみんなで相談していきながら進めていききたいとは思っているんですけれども。戦後が終わるという節目には、まだこの小笠原村の中にも接収が続いている土地がある。その返還を求めていく、その返還を達成してこそ、戦後が終わるのではないかなという気がしています。

そのきっかけになるのが、やはり返還50周年のときなのかなと思いますし、また一方では、政治的な意味でのチャンスという部分では、馬毛島にNLPなりFCLPの訓練が移るときに、やはり日本に、小笠原村に返還してもらうというのは一つ考えなのではないかなと、まだ個人的におぼろげに考えておるんですけれども、その点は村長いかがでしょうか。

○委員長（杉田一男君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） まず、米軍に対する土地の所管というのは外務省だというふうに記憶をしております。

それから、今、北方領土の返還が話題になっておりますが、小笠原、それから沖縄が日本に復帰した、返還になった大きな理由は、軍事基地をそのまま容認をしたということだということが一つと言われております。

今年、オバマ大統領が広島を訪れました。今月、安倍総理が真珠湾、パールハーバーに行く聞いております。戦後をどういうふうにかえるかというのは人それぞれだと思いますが、恐らく戦争をした当事国が今のような和解をして、同盟国になっているという例は世界中で日米だけだというふうに私は思っております。沖縄の方は沖縄の方でいろいろな状況がございまして、基地の反対とか求めている方たちもいますが、そこに多くの政治的な考えで島外から行っていらっしゃる方もおります。

硫黄島は、米軍がそこにいるからといって、旧島民も帰れないという中では、幸いにして行政的に実質的な支障を来すとか何かがあるわけではございません。したがって、今の流れをどのような観点から、視点から見るかということにもよりますけれども、米軍で言えば硫黄島の摺鉢山というのは第2次世界大戦の英雄の地で、イオウトウというふうに名前を変えるだけでも大変な抵抗がございました。そういうものを乗り越えてきているという

歴史もございますので、私は単純に戦後処理と、返還を求めることが単純に戦後処理になるという考えは持っていないところでございます。

かといって、求めないのがいいかという結論も持っていないんですが、今の時の流れを見ると、そういう友好の一つの先知として、硫黄島のありようというのは多角的に考えてもいいのではないかなというふうに思っているところでございます。

○委員長（杉田一男君） ほかにございませんか。

（挙手する者なし）

○委員長（杉田一男君） 質疑がもうないので、これにて質疑を終了いたします。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（杉田一男君） 異議なしと認めます。

次に、全てをひっくるめた中のその他という形で、何か委員のほうから質問があれば、お受けします。

池田 望議長。

○議長（池田 望君） 来年の墓参について、お伺いします。

新しいおがさわら丸ができて、かなり大型化しました。今度の新おがさわら丸ではこれから初めての硫黄島の墓参になりますが、ブイの問題だとか、事故やその他トラブルのないように万全な体制を整えていただきたいんですが、ブイの設置など、その他準備ができているところまででよろしいですから、教えていただきたいと思います。

○委員長（杉田一男君） 総務課長、セーボレー君。

○総務課長（セーボレー孝君） おがさわら丸が係留するブイについてですけれども、今、硫黄島には4基ありまして、船も新しくなったということで、現状あるブイの情報、それからどういう間隔で今設置されているか、それを小笠原海運のほうに防衛省経由で情報提供して、小笠原海運のほうでも技術的な検討はしていただいているということが、まず1つあります。

あと、例年、訪島事業にあわせて仮設栈橋を設置していただいておりますけれども、それにつきましては、今月中には基本的な考え方と、できればその図面も提示したいということを知っており、さらにまた年明けてから、できれば現地でその図面をもって調整したいという話も聞いております。

○委員長（杉田一男君） いいですか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○委員長（杉田一男君） それでは、私から1つお聞きします。

今、硫黄島において情報収集力強化のために、アンテナの設置が行われていると思います。平成29年度完成を目標に進めていると思いますが、現況とその進捗状況に変更はないのかどうかお聞きします。

○委員長（杉田一男君） 総務課長、セーボレー君。

○総務課長（セーボレー孝君） この硫黄島におけるアンテナ施設の整備につきましては、3年前の平成25年9月に設置したいということで、その概要と建設予定地、あるいはそのスケジュール、それらが北関東防衛局のほうから、皆さんに説明があったかと思います。その後、その工事が局舎の工事とか通信網を通す地表のピット、それらの工事を行っておると聞いております。

ただ、地面を掘らなければいけないという工事になっておりますので、不発弾がかなり多く見つかって、その都度、こちらのほうには報告がありますけれども、そういったところで苦労している状況があるかと思います。それに伴って、工事がどのような形で遅れるかとか、そういった情報はまだ出てはおりませんが、実態としてはそういうのがあるということを聞いております。

以上でございます。

○委員長（杉田一男君） そうすると、大きな変更はなく、順調に進んでいるということですか。

総務課長、セーボレー君。

○総務課長（セーボレー孝君） 今のところ、計画に大幅な変更があったということは聞いておりません。もしそういうことがあれば、議員の皆様にも情報提供をしたいと思っております。

○委員長（杉田一男君） ほかに委員の皆さん。

安藤重行副委員長。

○副委員長（安藤重行君） 念押しということですが、旧島民の方の、島に住んでいる人もそうですけれども、硫黄島からの外来種の植物の持ち出し禁止というルールがあるんですが、旧島民の方についてはその枠が外れているということなんですね。

ただ、硫黄島で作業されている島民の方から、それも規制しないとだめなのではないかというふうに、船に乗る前にいろいろ言われたことがあったので、その辺を来年度の墓参に

向けてきちんと検討していただけないかなと思いますが、いかがでしょうか。

○委員長（杉田一男君） 環境課長、深谷君。

○環境課長（深谷雪雄君） 今おっしゃっていただいたように、旧島民の方については、いろいろな思い出の品ということもあって、植物等の持ち出しは、禁止というところまではお願いはしておりません。ただし、委員の皆さんにも実際現地でもご協力いただいたように、虫が付着していないかとかというチェックは、きちんと目視で行うということは徹底したいと思っています。

これまで、そういった形でお認めしていたところを、いきなり禁止というところまでできるかどうかということがございますので、少なくともそういった虫類をきちんとチェックする体制を、今まで以上にきちんとやっていくということをまずは考えたいと思っております。

○委員長（杉田一男君） 安藤重行副委員長。

○副委員長（安藤重行君） 土を洗わないで持って帰るというような状況がよく見受けられて、去年はわかっている人たちには宿舎のところで洗ってもらったりとか、いろいろなことをしたんですけども、やはりそういう体制をきちんととったほうがいいのではないかなということがあったので。

去年は、その人たちの荷物を議員が持ってあげたら、あいつ議員なのに何で持ってきているんだというふうに逆に怒られたりしている人もいましたので、そういうのもやはりきちんと対応していったほうがいいかなというふうには思います。

では、よろしくお願いします。

○委員長（杉田一男君） ほかにございますか。

（発言する者なし）

○委員長（杉田一男君） 質疑がもうないようですので、これにて質疑を終了します。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（杉田一男君） 異議なしと認めます。

◎閉会中の継続調査について

○委員長（杉田一男君） 次に、日程第5、本委員会の閉会中の継続調査についてお諮りします。

お手元に配付の事件調査のために、閉会中の継続調査の申し出をしたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（杉田一男君） 異議なしと認めます。

よって、閉会中の継続調査を申し出ることにより決定いたしました。

◎閉会の宣告

○委員長（杉田一男君） お諮りします。

本日の議題は終了しましたので、これをもって本委員会を終了したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（杉田一男君） 異議なしと認めます。

よって、本日の委員会を閉じます。

これをもちまして、硫黄島調査特別委員会を閉会します。

お疲れさまでした。

（午前 11 時 28 分）